

## 自然教育園産菌類目録 (1)

土 居 祥 兌\*

### List of Fungi in the Institute for Nature Study 1.

Yoshimichi Doi\*

国立科学博物館附属自然教育園は、東京都港区白金台にあり、関東平野の海岸よりの低地帯に位置している。当園は、都内では珍しく自然環境のよく保存されている場所である。園内には武蔵野の面影をとどめるスダジイ、コナラ、ムクノキ、エノキ、ミズキ、クロマツ、アカマツなどの多い雑木林があり、その他に沼、池、小川（さんしょうおの沢）や、武蔵野にみられる樹木や草本を植栽した道筋（武蔵野植物教材園および路傍植物教材園）、近年話題になったシュロやアオキの繁殖地域などがある。

このような環境下で、菌類はそこに生えている植物あるいは生息している動物、ときには他の菌類や微生物に寄生、腐生あるいは共生している。自然教育園のどのような環境条件下にどのような菌類が見出されるか、あるいは見出される可能性があるかを、ここで項目を分けて述べておきたい。

1. 植物寄生菌. 生きている種子植物、シダなどの葉、茎（樹幹）、根に様々な菌類が寄生する。例えば、水生植物教材園およびひょうたん池の北側のソメイヨシノ（サクラ）にはサクラノテングス病菌が、また、明田川ら（1985）でE地区と指定された地域のアズマネザサの葉にはタケ・ササ類の葉さび病菌が多い（以上2種は今回の目録には加えていない）。植物寄生菌の多くはサビ菌類（担子菌類）、ウドンコ病菌類、胴枯病菌類（子のう菌類）、ツユカビ類（鞭毛菌類）および不完全菌類である。

2. 倒木・枯枝上の菌類. 植物寄生菌のうち、いわゆる殺生菌は寄主を枯死させた後もそこに生える。倒木や枯枝から生える菌類は多様で、ヒダナシタケ目の多くの種、キクラゲの仲間、ハラタケ目の一部（以上担子菌類）、核菌類、小房子のう菌類、チャワタケ類（以上子のう菌類）などがあげられる。倒木を処分しない地域はこれらの菌類の豊庫であり、倒木の処分は菌類のための自然環境の破壊を意味する。

3. 落葉上・堆積腐植上の菌類. 4月から10月の間、生えている期間は短期間ながらモリノカレバタケ属、オチバタケ属、クヌギタケ属、ナヨタケ属などの種が大発生することがある。日本産のこれらの属の分類学的研究は進んでいないので、当園産の種の同定も難しい。その他小型のハラタケ目のキノコや1～5ミリメートルのチャワタケ類、葉上か、あるいは葉の組織内にもぐりこむ核菌類、小房子のう菌類・分生子果不完全菌類が多い。

4. 土壌菌類. 堆積腐植の分解の進んだ層を含めて土壌からは多くの不完全菌類（特に糸状菌）や接合菌類の他、不整子のう菌類も検出される。土壌菌類の検出は一般に培養による。

5. 菌根菌類. シイ・カシ類やアカマツの根に共生する菌根菌は当園にも少なくない。ハラタケ目のテングタケ属、アセタケ属、イグチ類、ベニタケ属、チチタケ属、イッポンシメジ属、腹菌類の多くの種、ヒダナシタケ目のホウキタケ科の数種などがみられる。その他接合菌類アツギケカビ科のいわゆるVA菌根菌も多い筈であるが本菌群の分類学的研究は日本では殆ど行われていない。なお、今日までの当園での調査で

\* 国立科学博物館植物研究部, Department of Botany, National Science Museum.

は、菌根菌類とされるアカヤマタケ科やフウセンタケ属のキノコが全く見られなかったのは奇妙である。

6. 動物寄生菌類. 昆虫から生えるいわゆる冬虫夏草のうち、クモタケとオサムシタケは7～8月に多産する（いずれも今回のリストには入っていない）。その他、蚊の幼虫に寄生するボウフラキン科の種（鞭毛菌類）や節足動物の腸管に寄生するトリコミクス綱（接合菌類）の種なども検出できそうであるが未調査である。変ったキノコでモグラの巣から生えるモグラキノコ、モグラノセツチンタケ（ハラタケ目、ワカフサタケ属）などもシイ・カシ林地上に生えるといわれるので注意したい。

7. コウボ類. 園内でコウボの検出されやすい基物は、樹液、動物の糞、生葉の表面、土壌などである。カラスその他の鳥類の糞はしらべておかねばならない基物である。

8. 水生菌類. 従来調査されたことはないようであるが、沼、池、小川の水、泡、泥、動植物体などの他、林床土壌からも様々な接合菌類、鞭毛菌類、水生不完全糸状菌類が検出される筈である。なお当園の池から流れ出た水は人為的に再び池に循環させているとのことで、それが水生菌類相に何らかの影響を与えていることも考えられる。

以上8項目に挙げた菌類の調査には相当の年数と調査人員が必要で、今後それぞれの項目あるいは特定の分類群の研究者に調査を依頼するのは勿論であるが、菌類に興味をお持ちの方々の参加・協力を期待する次第である。

ついでながら、ここで園内の食べられるキノコと毒キノコについてふれておきたい。

食べられるキノコの主なものはエノキタケ、ヒラタケ、ナラタケ（いわゆる *Armillariella mellea* であるかどうか疑問があり、今回のリストから外してある。食べられることは間違いない）、カンゾウタケ、キクラゲ、アラゲキクラゲ（キクラゲの仲間は目録第2報にリストする予定）、キツネノチャブクロなどがある。一方毒キノコにはニガクリタケ、アセタケ類が多く、有毒かもしれない種としてミドリシギタケ、キサケツバタケが挙げられる。また、ハツカネズミに対して猛毒であることがわかった（滋賀大教育学部横山和正助教授の私信による）フクロツルタケは武蔵野植物教材園に7～9月に生える。さらについでながらキ集がその種の絶滅につながるか否かについて、ここで簡単にふれておきたい。キノコは菌類の胞子を作る器官であって、種子植物でいえば花・種子の部分にあたる。人間がキノコを見つけて採取する頃には多くのキノコはすでに無数の胞子を放出した後である。また、種子植物の根・茎・葉に相当する菌糸はキノコの基部から基物内に残っている。従ってキノコの着生基物まで根こそぎ採集しない限りキノコを採集しても事実上菌類の絶滅にはつながらない。

ところで、自然教育園での菌類の研究例は従来極めて少なく、目録作成を試みた研究者もかつてはいたとは聞くが菌類目録は公表されていない。当園の菌類に関する研究報告は、筆者の知る限りでは坂上・久戸瀬・浜田（1984）による土壌中の糸状菌類一般の量的研究だけである。

このような状況のもとで、自然教育園の方々のお勧めもあり、筆者は数年前から当園産菌類の目録作成を目標に調査を進めてきた。特に昭和60年10月15日から11月10日までの国立科学博物館本館におけるキノコ特別展示では自然教育園産のキノコ生品の展示コーナーを設け、そのためにキノコを採集したが、このときに当園からはじめて記録された種も多い。

これらの標本資料ならびに自然教育園資料室に保管されている当園産菌類標本に基づいて、今回は、当園でごく普通にみられる菌類のうちハラタケ目、ヒダナシタケ目および腹菌類の70種を目録の第1報とすることとした。これらのキノコのうち、シイサルノコシカケを除いた69種は、今関・本郷（1957, 1965）、今関・本郷・椿（1970）などの図鑑で検索・同定できる。シイサルノコシカケは上述の図鑑類に出ていないが、自然教育園にとって重要な意味をもっているので、第1報に加えた（“重要な意味”については目録中シイサルノコシカケの項参照）。

今回の菌類目録第1報の作成にあたり、自然教育園の園長をはじめ、研究係および事務室の方々に多大の御協力を頂いた。深くお礼申しあげます。また数種の菌類の同定確認をお願いした農林水産省林業試験場保護部のきのこ科、樹病科の方々については目録中の当該種の項にそれを付記した。ここに深謝いたします。

下記の目録で、各種名の次に記したGは地上に生えること、Wdは枯死植物体上(通常は倒木や枯枝上に生えることを意味し、落葉上の場合にはそれを付記した)、Wlは生きている植物体上に生えることを表している。そのあとに記した年月日は保存標本の採集日、(自)は自然教育園資料室保管標本、F-以下の数字は国立科学博物館植物研究部標本庫(TNS)保管標本の登録番号を表わす。また、種によっては必要に応じて注釈を付記した。なお、変形菌類は本目録で扱う菌類とは多少異質の菌類であるので除外する。

## 菌 類 目 録 ( 1 )

### Basidiomycotina 担子菌亜門

#### Hymenomycetes 菌茸綱

#### Agaricales ハラタケ目

#### Tricholomataceae キシメジ科

1. *Asterophora lycoperdoides* S. F. Gray, ヤグラタケ, クロハツの傘の上に発生, 1-IX-1983 (F-199163).
2. *Laccaria proxima* (Boud.) Pat., オオキツネタケ, G, 4-VII-1984 (F-199009).
3. *Collybia confluens* (Fr.) Kummer, アマタケ, Wd, 27-V-1985 (F-198924, 198955).
4. *Respinatus rhacodium* (Berk. et Curt.) Sing., クロゲシジミタケ, Wd, 18-X-1983 (F-198835), 24-IV-1985 (F-199071), etc.
5. *Schizophyllum commune* Fr., スエヒロタケ, Wd, 15-V-1985 (F-199115).
6. *Pleurotus ostreatus* (Fr.) Quél., ヒラタケ, Wd, 18-X-1984 (F-199019), 15-V-1985 (F-199147).
7. *P. cystidiosus* O. K. Miller, オオヒラタケ(アワビタケ), Wl~Wd, 17-X-1985 (F-199161). 本菌は本来東南アジア産のキノコであるが、数年前から東京都内でも発生しはじめた。今後ブラタナスの街路樹の大害菌として問題になると思われる。極めて美味で沖縄本島ではポット栽培が行われている。
8. *Oudemansiella longipes* (St Amans) Moser, ビロウドツエタケ, G, 7-VII-1985 (F-198940).
9. *O. radicata* (Fr.) Sing., ツエタケ, G, 1-IX-1983 (F-199024).
10. *Xerula chrysophepla* (Berk. et Curt.) Sing., ダイダイガサ, Wd, 4-VII-1984 (F-199043).
11. *Flammulina velutipes* (Fr.) Sing., エノキタケ, Wd, 18-X-1984 (F-199013, 199014), 15-V-1985 (F-199133), etc.
12. *Pseudohiatula stephanocystis* Hara, マツカサキノコモドキ, Wd, (地上のマツカサ上), 22-XI-1984 (F-199167).
13. *Marasmius purpureostriatus* Hongo, スジオチバタケ, Wd (落葉上), 15-V-1985 (F-199168).
14. *M. siccus* (Schw.) Fr., ハリガネオチバタケ, Wd (落葉上), 7-VII-1985 (F-199173), 17-X-1985 (F-199165).
15. *Mycena galericulata* (Fr.) Quél., クスギタケ, Wd, 15-V-1985 (F-199148).
16. *M. rorida* (Fr.) Quél., スナワタケ, Wd, 24-IV-1985 (F-199092, 199104).
17. *M. pura* (Fr.) Quél., サクラタケ, Wd (通常は落葉上), 7-VII-1985 (F-198944).

**Amanitaceae テングタケ科**

18. *Amanita agglutinata* (Berk. et Curt.) Sing., フクロツルタケ, G, 27-IX-1985 (F-199169), 最近の研究で、ハツカネズミに対して猛毒であることがわかったといわれる。要注意のキノコ。
19. *A. longistriata* Imai, タマゴテングタケモドキ, G, 7-VII-1985 (F-198934).
20. *Pluteus cervinus* (Secr.) Quél., シカタケ, Wd, 4-VII-1984 (F-199039).

**Agaricaceae ハラタケ科**

21. *Lepiota clypeolaria* (Fr.) Quél., ワタカラカサタケ, Wd (落葉上), 7-VII-1985 (F-199174).
22. *L. japonica* Kawam. ex Hongo, アカキツネガサ, G, 17-X-1985 (F-199158).

**Coprinaceae ヒトヨタケ科**

23. *Coprinus micaceus* (Fr.) Fr., キララタケ, Wd, 24-IV-1985 (F-199107), 15-V-1985 (F-199140).
24. *Pseudocoprinus disseminatus* (Fr.) Kühner, イヌセンボンタケ, Wd, G, 1-IX-1983 (F-198991), 7-VII-1985 (F-198916).
25. *Psathyrella velutina* (Fr.) Sing., ムジナタケ, G, 24-IV-1985 (F-199103).
26. *P. candolleana* (Fr.) A. H. Smith, イタチタケ, G~Wd, 24-IV-1985 (F-199100), 7-VII-1985 (F-198928), etc.
27. *P. gracilis* (Fr.) Quél., ナヨタケ, G, Wd, 15-V-1985 (F-199149).

**Bolbitiaceae オキナタケ科**

28. *Agrocybe erebia* (Fr.) Kühner, ツチナメコ, G, 18-X-1984 (F-199012).
29. *A. praecox* (Fr.) Fayod, フミヅキタケ, Wd (落葉上), G, 15-V-1985 (F-199139), 27-V-1985 (F-198950).

**Strophariaceae モエギタケ科**

30. *Stropharia rugosoannulata* Farlow f. *lutea* Hongo, キサケツバタケ, Wd (落葉上), 27-IX-1985 (F-199160). 本種は通常はゴミ捨て場, 牛馬の糞上などに発生するが, 当園内では林内腐植質上に長い行列をつくったり輪状に並んで生える。
31. *Naematoloma fasciculare* (Fr.) Karst., ニガクリタケ, Wd, 12-VI-1985 (F-199178). 毒キノコとして知られる要注意のキノコである。

**Cortinariaceae フウセンタケ科**

32. *Inocybe fastigiata* (Fr.) Quél., オオキヌハダトマヤタケ, G, 27-IX-1985 (F-199159). アセタケ属の多くの種は有毒とされる。
33. *I. umbratica* Quél., シロニセトマヤタケ, G, 1-IX-1985 (F-199162).
34. *Gymnopilus aeruginosus* (Peck) Sing., ミドリスギタケ, Wd, 4-VII-1984 (F-198980), 7-VII-1985 (F-198937).

**Rhodophyllaceae イッポンシメジ科**

35. *Rhodophyllus murraini* (Berk. et Curt.) Sing., キイボカサタケ, G, 4-VII-1984 (F-198982).
36. *R. acutoconicus* Hongo, トガリウラベニタケ, G, 24-IV-1985 (F-199085).

**Boletaceae アミタケ (イグチ) 科**

37. *Gyroporus castaneus* (Fr.) Quél., クリイロイグチ, G, 7-VII-1985 (F-199533).
38. *Boletus edulis* Fr., ヤマドリタケ, G, 7-VII-1985 (F-199175).

**Russulaceae ベニタケ科**

39. *Russula nigricans* Fr., クロハツ, G, 1-IX-1983 (F-199163).